

「自ら考え、自ら選ぶ進路選択」のための、
教育現場での課題とは

現在の高等学校の教育現場が抱える問題点、進路指導における課題などについて、愛知県内の3校の高等学校の進路指導主事の先生方にお集まりいただき、お話をうかがいました。

各校プロフィール

■愛知県立武豊高等学校

生涯にわたる「学び」の姿勢を育み、社会のために積極的に行動できる人材を育てるなどを目標にかかげています。夢ナビライブに今年は2年生42名、3年生107名が参加。生徒たちにとって、他校の生徒を意識し、進路を考える上で強い刺激や影響力のある機会として、夢ナビライブを活用しています。

■愛知県立天白高等学校

生徒一人一人が、成し遂げるべき自らの目標と、それを達成しようとする意志をもち、規律ある学校生活をめざしています。毎年夢ナビプログラムを文理選択の資料として1年生で実施。昨年、夢ナビライブを教員が視察し、今年は、秋以降の第1志望決定のための情報収集を目的に、2年生を中心に100名以上が参加しました。

幅広い知識、ゆたかな情操、調和のとれた健全な心身を養い、郷土と日本のよき伝統・文化を継承し、広く国際感覚を身につけた次代を担う人材の育成をめざしています。2年前に、夢ナビプログラムを導入、夢ナビライブ参加も2年目。今年は1年生から3年生まで約100名が参加。進路担当だけでなく、多くの教員も参加しました。



愛知県立武豊高等学校
進路指導主事
竹内 浩人 先生

愛知県立東海南高等学校
進路指導主事
新帯 聖文 先生

愛知県立天白高等学校
進路指導主事
孕石 順深 先生

進路指導の現場が
直面している課題とは

竹内…生徒たちが10年後、20年後、30年後に幸せな生活が送れるような進路選択をさせてあげたいと考えています。生徒一人ひとりをしっかりと見て、それぞれに合った進路選択をサポートしていくことが目標です。とはいうものの、「自分自身で考えて、自分の将来像を描く」ということができる生徒は多くありません。例えば「経済」と「経営」の違いをよく知らないまま学部選択をしてしまうなど、あまり深く考えないで進路を選択してしまう生徒もいます。そこに進んでいくようになるのかをわかったうえで進んでほしいのです。もっと真剣に自分の将来を考えさせるような手立てはないかと日々考えています。



なってしまうことは問題だと思っています。もっとほかに、その生徒に合った進路や可能性あるかもしれないのに、決めてしまっているのもったいないのです。いくつもの選択肢があることを認識した上での選択をしてほしい、社会はさまざまな学問や分野が絡み合っていて、なんだという「つながり」を知ってほしいのです。

あまり目標の定まっていない生徒の中には、科目、特に数学の好き嫌い、得意不得意から文理選択、学部、大学選択まで行ってしまう生徒もいます。進学がミスマッチにつながってしまう恐れがあるので、自分の本当にやりたいことを見つめ、よく調べて進路選択をしてほしいと思っています。

孕石…私も生徒の視野が狭いということは感じています。1年生で職業研究というと、本当にみんながよく知っている目に見える職業しか見えていないのが現状です。当然、大学のことも知りません。今、大学も職業も非常に複雑になってきているので、教員の側も勉強していかないとわからなくなってしまうと思います。

学問分野や学部についても、同じ

名称でも大学によって学べる内容が異なっていることがあります。1、2年生はそれを本気で調べようとしません。でも3年生になってから調べたのでは遅いのです。生徒たちの世界はほぼ学校と部活ですが、実社会はもっと広く複雑です。ですから1、2年生のうちから、学校の中だけではなくいろいろな所に出て行って、さまざまな経験をしてほしいと思っています。大学との連携による理科実験講座や夢ナビもその一つです。自分の進路について真剣に考えるための、何らかのきっかけを与えられたらと考えています。

新帯…そういう点からいうと、夢ナビプログラムは



さまざまな学問分野に触れる機会を与えることができ、効果的だと思います。自分の関心ワードを書くだけで、何枚もの夢ナビ講義シートが戻ってくることや、その中には自分が全く予想もしていなかった学問分野の講義も紹介してもらえるので、生徒自身が考えていなかったような可能性が提示され、視野が広がるのです。短時間の取り組みで、その戻って

くるものの大きさを感じています。

孕石…本校でも1年生で夢ナビプログラムに取り組んでいます



が、適性検査も合わせて実施しています。夢ナビプログラムと適性検査から、非常にたくさんの可能性を考える資料をもらうことができます。夢ナビプログラムで戻ってくる講義シートは、自分の書いた関心ワードへの「返事」であるだけに、生徒たちは難しくても真剣に読んでいます。

こうした資料は、自分の将来を考える上でのきっかけになりますし、文理選択に向けて重要なものです。「こういう仕事があるんだ」「こういう学問分野があるんだ」という気付きは生徒たちに刺激になり、生徒たちは楽しみながら取り組んでいます。夢ナビプログラムをやっていない頃に比べて、具体的な将来の自分をイメージする生徒が増えていますという実感があります。1年生の中からも、自分から高大連携の取り組みを探ってきて大学の講座に参加したいという生徒も出てきています。

夢ナビライブ参加への 狙いとその手応え

竹内…夢ナビライブの良さは、どの学年の取り組みにも対応できることです。1年生であれば、まなびステーションで学問について教えてもらったり、2年生は講義ライブや夢ナビTALKでさまざまな学問に触れて自分の興味を確認することができ、3年生は個別説明ブースで自分が実際に進学の対象としている大学の話を聞くことができます。また、あれだけ高校生が集まっている場所に行く機会がないので、参加するだけでも進学意識を高められると思います。

新帯…本校は2年生が中心で参加しました。私は昨年視察で参加したのですが、講義ライブはタイトルを見ただけでも魅力的なものが並んでいました。事前に受講する時間割りを決めていかないと迷ってしまうような状況でした。自分の進むのはこの学問だと決め打ちをしている視野の狭い生徒にも、「これ、おもしろそうだ」というものに触れることで、新たな広がりが出ると思います。また講義の内容はもちろんですが、他校のた

くさんの高校生が集まっています、みんな頑張っている姿を見ることでも、勉強に対する、また進路を考えると、いうモチベーションアップにつながると思います。

孕石…3年生は個別説明ブースに行く生徒が多いですね。2年生は講義ライブの選び方を見ても、それは大学名というよりはやはり学問の内容とタイトルで選んでいます。そして、実際に聴いてみて、そこで初めて「へー、こんな大学があるんだ」という気づきになるようです。

中京圏以外の大学にも来ていただくことが、生徒のその大学への認知度を高めることにつながると思います。

新帯…2年生で、まだその大学が進学先として候補にないとしても、3年生になつて進学する大学を考える際に、「そういえば夢ナビライブで、あの大学の講義を聴いたな」ということが残っていて、その大学を考えてみようかということはあると思います。現在の志望校ではないけど、「将来の志望校」になり得るでしょう。県内には私立大学がたくさんありますが、



愛知県は地方の国公立大学にたくさん生徒を送り出している県でもあります。夢ナビライブに参加してもらいたい大学として、事前のアンケートの中で多くの地方の国公立大学の名前を挙げさせていただいたのもそのためです。親元を離れて4年間人間的に成長するという経験が加わることから、地方の大学で学ぶほうが、世の中に出ていくときにその成長分が大きいのではないかと私は考えています。

すると参加した3年生から、「推薦でその学校を受けたい」という生徒が出てきたり、国公立大学も含め推薦やAO入試の出願希望者が例年以上に増えています。夢ナビライブで、刺激を受け実際に学びたいこと、進学したい大学を見つけることにつながっていった生徒が多くいると感じています。ある大学の先生の話は直

接聞いてきて、「僕は絶対にこの大学に行きたいです」と言ってくる生徒もいました。教員の側が、こうした生徒をどう指導していくか焦りを感じているような状況です。大学、専門学校、就職、それぞれの道で、本当にその選択がベストなのか、例えば大学進学する生徒であれば、その先何をしていいのかまでを生徒自身が考えるように指導していきたい

のですが、教員側の指導経験の問題もありますし、なかなか難しいことも多くあります。しっかりと生徒に寄り添って、生徒の現状を見定めて、将来にどんな可能性があるのかをできるだけ幅広く伝えて、その中から生徒が選択していくという流れを作りたいと思っています。

孕石…私は進路指導部の教員に限らず、先生方に一緒に夢ナビライブに参加しようと声をかけま

した。本校の場合、素直な生徒が多く教員の影響力が大きいので、担任の一言で参加数は大きく変わります。だからこそ、まずは教員が夢ナビライブに参加して活気や熱気を体感し、その良さを生徒に伝えてほしい。進路指導の中でどう生かしているか考えてほしい。そして「夢ナビライブに参加すると、生徒が変わるよね」ということを実感してほしい。特に若い先生には参加してほしいと思います。

竹内…私も同感で、進路指導というのは、教員自身が知らない生徒に説明できません。この大学ではこういうことをやっているだとか、この大学のこの学部にはこういう特徴があるかなど、教員自身が知ることが大事です。ですから、生徒たちの出欠確認などをするチェックカウンターには一日私が座っているから、若い先生方には会場を回って講義ライブや大学の説明を聞いたり、生徒の行動を見ようと言いました。

これから入試制度も変わってきます。大学の打ち出したアドミッシンポリシーなども知ることが大事ですし、それがその生徒に合っているかを見極めて生徒の進路を考



えていくのが本当の進路指導だと考えています。教員が自ら学んでいかなければならない時代に突入しているのだと思います。参加大学をさらに増やしてもらって、教員も学び、それを生徒に還元できればと願っています。

新帯…大学側には大学の考え方、大学はどんな生徒を求めているのかなどの方針や情報を発信してほしいです。私自身もさまざまな機会を利用して、大学の情報を収集していきたいと考えています。大学がそういう方向性なら、高校ではこうした教育をする必要があるということを見極めたいからです。それがわかってくると、一方的に教えるのではなく、生徒の考える力をどうやってつけていくかに取り組んでいけると思います。

